

十人十色の、ミライを咲かせる

2026 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

# 2026 英語-①

- ・形式に大きな変化があり、文法問題は3題増え配点も微増、問6の読解問題は長文のスピーチから相互に関係する二つの短文を読む形式となった。
- ・問題数は増えたものの、文法問題は全体的に易くなった。
- ・読解の語数もやや短くなり、形式の変化に戸惑う受験生はいたと思われるが、全体としては易化したと言える。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	リスニングについては、おおむね昨年と同様の難易度だった。昨年同様、聞こえた単語や疑問文の形式に引きずられすぎると間違えるように作られた、ひっかけ的な問題が多かった。	キーワードを聞き取れているだけでは解けず、会話や文章の文脈をきちんと理解できているかが問われる。早い段階から、意識的にリスニングの練習機会を作っていこう。
問2 適語補充	(イ) movementなど、今年も受験生にとってはおそらく馴染みの薄い語が出題されたが、誤答選択肢はわかりやすく、選択肢を絞るのは難しくなかった。(ウ)のみ、引っかけ的な選択肢で構成されており、単語に引きずられず文意をしっかりと把握できている必要があった。	単語を書く問題ではないので、読んでわかる単語(受容語彙)の数を増やすのがポイント。単語帳による暗記だけでなく、様々なテーマの英文に触れながら、わかる語を増やしていこう。
問3 適語選択	昨年並みの難易度。(エ)はthatの省略された名詞節の主語が動名詞という、教科書等ではあまり目にしない形の出題で、難しくはないが、戸惑った受験生もいたのでは。(カ)は、if節を見て仮定法かそうでないかを判断する必要があり、全体として、文法事項の確実な理解が求められた。	なんとなく文の形を覚えている、という状態では間違える問題が含まれている。基本文の把握は前提として、なぜ文がその形になるのかをしっかりと理解していこう。
問4 語順整序	例年に比べ易くなった昨年の問題に比べても、さらに易くなった印象。全体として、他県の文法問題並みの難易度となった。(ウ)など、進行形と分詞による後置修飾を混ぜ込んで難しくした問題はあったが、全体として、基本文の構造をしっかりと理解できていれば対応できたのでは。	2年連続の易化で、神奈川のこれまでの入試の傾向上、来年も同様の難易度の問題が続く可能性はある。が、平均点を見て調整が入る可能性もあるので、中3後半の文法事項を中心に、しっかりと理解を積み上げておくのがよい。

# 2026 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5 条件作文	<p>how longを用いた現在完了の継続用法の疑問文が出題された。</p> <p>教科書基本文の形式そのままであり、無生物主語を用いた間接疑問文を書かされた昨年に比べると大幅に易くなった。</p>	<p>疑問詞を含む疑問文を書かされるのは例年同様。</p> <p>ここ2年難化傾向だったが、それ以前の難易度に戻ったという印象。疑問詞を使った基本文の形を覚えてしまい、書けるようにすることが1番の対策になる。</p>
大問6-8 長文	<p>【問6】 関係する二つの英文を読む形式に変化。形式の変化に戸惑う受験生もいたと思われるが、英文自体は読みやすいものになり、全体としてはやや易化したのではない。だが、英文の正確な読み取りを求める傾向は変わらず、(ア)、(イ)No.2では、選択肢と本文を一つひとつ突き合わせて考える丁寧な読み取りが求められた。</p> <p>【問7】 短文と表を組み合わせた選択式問題。今年も、素直に頭から英文と資料を読み、情報を一つひとつ確認していくタイプの問題だった。難易度は昨年同様か。</p> <p>【問8】 生成AIを使って文化祭で上映する自主制作映画を作ることをめぐる対話文。昨年に引き続き3人の対話。今年も小問が1つ増え、8択から2つを選ぶ(ウ)が分解され、4択から1つを選ぶ小問2つになり、受験生の認知的な負荷は減ったのではない。一方で、選択肢には細かなトラップも仕掛けられており、正確な読み取りが求められる問題でもあった。総じて難易度は昨年並みかやや易化。</p>	<p>語数も減り、総じて昨年と比べて易くなった印象だが、その分、文章の内容をきちんと理解できているかを丁寧にみる問題になってきた。</p> <p>文章自体は読みやすいレベルではあるが、読みの速さと正確さが重要になる。神奈川県これまでの傾向からして、数年は同様の形式の問題が続くと思われる。</p> <p>入試直前期だけでなく、中2の後半ごろから、意識的に読解問題にチャレンジしていき、経験を重ねていこう。</p>

# 2026 数学-①

- ・全体の問題数や出題形式は昨年度から大きな変化はなかった。問1の基礎計算から、関数、確率、図形など、出題の順番も変わらず。過去の傾向に沿った出題が多く、過去問や入試形式の練習問題に多く触れてきた生徒にとっては、手を付けやすい問題が目立った。
- ・基本問題がある一方で、例年難易度が高い問題となっている関数や図形の問題では、今年も難しい問題が出題された。解ける問題を確実に解く力が今回も試された。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	(ア)～(オ)の5問の計算問題で、(ウ)と(エ)の出題順が入れ替わったが、問題数は変わらず。過去の出題に沿った基礎計算が今年も出題された。	例年、過去に出題されてきた計算パターンからの出題となっている。  今年出題されなかったが、有理化が必要な根号を含む計算や、式の展開なども頻出。早く正確に計算ができるようなトレーニングが必要。
問2 小問集合	(ア)～(カ)の6問で出題数は変わらず。(ア)では昨年は因数分解が出題されたが、今年は連立方程式が出題された。  2次方程式や変化の割合など典型パターンが多く出題され、(オ)の平方数となる自然数 $n$ を求める問題は、2023年度と数字が変わっただけであった。(カ)では2年連続で回転体の体積を求める問題が出題された。  回転体の問題は神奈川県入試ではあまり出題されていないが、昨年出題されたのでしっかり対策をした生徒も多かったのではないだろうか。	2次方程式、関数の変域や変化の割合など出題される問題は過去に出題されてきた形式のものがほとんど。  その他の問題も典型パターンが多く、過去問にある形式を確実に解けるよう訓練する。過去問の形式に慣れたら、全国入試でよく出題される基礎的な小問にも触れておくと安心。

# 2026 数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 証明と資料の 活用など</p>	<p>(ア)~(エ)の4問構成。</p> <p>(ア)では例年通りの円と相似の証明問題。証明の穴埋めは分かりやすい出題であったが、図形内の線分の長さ求めるものは、新たに相似な図形を見つけ線分の比から長さを求めていく難易度の高い問題であった。</p> <p>(イ)はヒストグラムの情報から箱ひげ図を選ぶ問題。過去の出題では、資料や選択肢、対話文が多く正解を見つけるのに時間を要する問題が目立ってきたが、今年の問題は比較的解きやすくなった。</p> <p>(ウ)では図形の面積を求める問題。例年通り図形の性質を幅広く使う難度の高いものであった。</p> <p>(エ)は速さに関する方程式の問題。コースを1周するという設定は教科書レベルの問題でもよく扱われるが、条件を丁寧に読み立式する必要があった。</p>	<p>証明の過程を穴埋めする問題は、前後の記述を丁寧に読んでいけば正解を導きやすい。過去に出題されてきた多くは円周角の定理を使うものであったので、過去問と同じ形式のものから練習していこう。</p> <p>資料の活用は、多くの情報を処理する必要があり、選択肢を確認するのも時間がかかる。入試レベルの問題で多く練習しておくが良い。</p> <p>その他は、図形、方程式、関数など幅広く出題されてきている。まずは過去に出題されてきた傾向を押さえることを優先しよう。図形の問題では、「この図形はこう考える」「このキーワードが出てきたらこれを疑う」など、解法の引き出しをいかに持っているかがカギとなる。</p>

# 2026 数学-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 関数	<p>解法の手順も過去に出題されてきたものと変更はない。</p> <p>2点の座標を求める際に、線分の関係式を使うという点も例年と変わらなかった。今年は軸に平行な線分で比を使うという点では、昨年より座標を求めやすかった。(ウ)は三角形の面積が等しくなる座標を求める問題。図形の性質から面積を求めやすい三角形を見つけることができれば、「図の全体から引く」という図形でよく使う考え方を使えば正解にたどり着けた。例年と比べると計算量も使う図形的な考え方も減り、答えを導きやすくなった。</p>	<p>座標を導くまでの手順がある程度パターン化されている。そのパターンを身につけるため、過去問に触れていく。</p> <p>比や図形的性質を使って座標を求める訓練、座標が分数になっても処理できるような計算力を身に付けていく必要がある。</p>
問5 確率	<p>例年通りさいころ2個のパターン。</p> <p>出た目に応じて、箱の中の玉を移動させる。これまで、図形の性質を使うものや、根号の計算、関数のグラフなど、他の単元で使う考え方も必要であったが、ここ数年は試行のルール自体は複雑ではないものが出題されている。しかし、丁寧な作業が必要であり、(イ)までたどり着けなかった受験生もいるのではないだろうか。</p>	<p>単純にパターンを数えるだけでなく、出題の条件を満たすにはどうなれば良いかを考える必要がある。</p> <p>時間との勝負となることもあるので、時間配分の仕方を身に付けておくと良い。</p>
問6 空間図形	<p>今年も(ア)と(イ)の2問のみの出題となった。</p> <p>(ア)は表面積を求める問題。例年は三平方の定理を使って計算をする必要があったが、今年では与えられた長さをそのまま使えば求めることができた。(イ)では立体の中の3点を結んでできる三角形の面積を求める問題。セオリー通りに3つの辺の長さを求めていくが、それぞれの値から三角形が直角三角形であることに気づくことができれば、正解を導きやすかった。</p>	<p>図形問題を解く上での着眼点を身に付けていく。</p> <p>三平方の定理や相似は必ず使うので、まずは平面図形での解法から固めていくと良い。面積や体積の公式は確実に。</p>

# 2026 国語-①

- ・問1の短歌の読み取りがやや簡単に、問2がやや難しくなったが、その他については昨年と同程度の難易度で、全体として昨年並みかやや難化といったところ。
- ・問2(オ)は登場人物の心情の変化を考えさせる問題。二つの場面を比べて変化を推論する能力が問われる問題だった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	<p>例年同様の問題形式。漢字については、読みで出題された「囑託」は難しかったが、その他については漢検3級までの範囲に収まっていた。</p> <p>短歌の読解は、難しかった昨年とは異なり、比較的平易な表現を用いたものが出題され、例年並みの難易度だったと言える。</p>	<p>短歌や俳句の問題は、まず比喻や対比といった基本的な表現技法用語の意味を押さえておくことが大切。</p> <p>日頃の国語の学習を疎かにしないこと。</p>
問2 物語文	<p>物語文の読解。出典は、明治期の実在の写真家小川一真と東洋美術史家で東京大学講師であったフェノロサとの交流を題材にした永井紗耶子「秘仏の扉」。神奈川県の入試ではよく出る、歴史小説からの出題となった。</p> <p>易しかった昨年に比べると、全体的に難化したといえる。とくに、主人公「一真」の心境の変化を問う(オ)は新傾向の問題と言える。傍線部で示されていない、互いに離れた場面から答えの根拠を探す必要があった。また、(カ)も選択肢の微妙な差を吟味する必要があり、難しい問題だった。</p>	<p>選択肢の吟味は、コツを意識して訓練することで精度を上げられる。また、入試に出題される小説は多くが「成長の物語」、つまり「主人公がある出来事によって変化する」ことを描いた作品である。そのことを意識して読むこと。</p> <p>神奈川県の小説の読解では歴史小説が出題されがちで、現代とは異なる文化的背景をイメージする力が必要になる。社会の歴史分野の学習にも生きるなので、気になる作品をいくつか読めるとよい。</p>

# 2026 国語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問3 論説文	<p>論説文の読解。出典は生成AIと身体性の問題について論じた吉岡洋「AIを美学する」で、英語の読解問題と同様、トレンドのテーマを扱った文章だった。</p> <p>やや抽象的な議論ではあるが、「人間には身体性があるが、AIにはない」という対比構造を意識しながら読めば比較的わかりやすかったのではないか。各設問の形式、難易度は昨年並みといったところ。</p>	<p>長い選択肢は2つか3つに区切って読む、といった基本的なテクニックを、問題演習を通じてきちんと使えるようになることがまず大切。また、昨年のSNS、今年AIと、出題される文章は近年の社会的変化に関連したものであることも多い。日頃からそうした話題に関心を持つことも大切だ。</p>
問4 古文	<p>古文の読解。出典は『宇治拾遺物語』の「極楽寺僧、仁王経の験を施す事」。</p> <p>現実の出来事と病床の「殿」の見た夢の出来事が同時に語られるが、そこまで複雑な構造ではなかった。昨年に比べると、(イ)、(ウ)など、主語の把握に絡んだ問題が多かったが、難易度的な変化はあまりなかった。</p>	<p>接続助詞「に」、「ば」の後には主語が変化する、主語のあとの格助詞はほぼ省略される、といった基本的な知識を押さえたうえで、問題演習を重ねよう。高校入試の古文で大切なのは、注なども駆使しながら文章の大まかな内容を捉えること。細かな知識よりも読み慣れることが大切。</p>
問5 資料の読み取り	<p>共通のテーマに関する2つの説明的文章と、それらを整理した資料との組み合わせという、一昨年以來続いている形式での出題。</p> <p>創作における表現の幅を広げるための工夫、というやや難しいテーマではあったが、問題としてはこれまで同様易しかった。問題演習を通じて手順を掴んでいけば、取りやすい問題だったのではないか。</p>	<p>今後もしばらくは同様の形式が続く可能性が高いが、変化する可能性もある。過去問を遡り、形式の変化を追いながら問題演習をしていき、共通する解法を掴んでいけばよいだろう。</p>

# 2026 社会-①

- ・全体的として、易くなった昨年とほぼ同程度の難易度。あるいはやや易化したか。
- ・知識事項の定着は前提として、とくに地理分野で、基本的な資料の読み取りのスキルを見られる傾向が強まった印象。これまで以上に問題演習の重要性は増した。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	<p>ヨーロッパのEU加盟国と人口移動の向きを表した地図、およびEU各国の一月あたりの最低賃金といったデータを用いた出題。</p> <p>基本的な用語の理解、および資料の読解ができていれば概ね対応可能で、全体的な難易度は昨年と大きく変わらない印象。</p> <p>時差問題はなくなったが、日本の首相の外国訪問回数についての資料を用いた(オ)では、消去法で選択肢を絞り込めるとはいえ、簡単な計算も必要だった。</p>	<p>基本的な用語の理解に加え、初見資料にも落ち着いて対応することが求められる。</p> <p>入試形式の問題演習が大切。三年の夏頃から意識的に取り組んでいこう。</p>
問2 日本地理	<p>戦後の埋立地の利用に関する資料と、神戸市の地形を示した図を使った問題。知識だけで解ける問題が少なく、初見の資料を素早く正確に読み取ることが求められた。</p> <p>(イ)(ii)は、資料から概算して答える問題で、入試のプレッシャーの中でも落ち着いて考えていく必要があった。(エ)は分野横断的小問で、西アジアの石油生産量に関する世界地理分野の問題だったが、問われている知識自体は基本的なものだった。</p>	<p>世界地理同様、知識以上に資料の読み取りの正確性が問われる傾向が強まっている印象。</p> <p>基本的な知識の定着はこれまで同様に重要だが、問題演習にもしっかり取り組むこと。</p>

# 2026 社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 近代以前の歴史</p>	<p>古代から近世にかけての人の移動と、その政治や文化への影響に関する資料で構成されたテーマ史的大問。</p> <p>全体的に、基本的な用語の理解ができていれば難しくはなく、昨年よりやや易化した印象。(オ)は資料の正誤判断が難しく、組み合わせを選ぶ8択という形式からしても難度の高い問題だった。</p>	<p>歴史分野ではまず基本知識の定着が問われる。</p> <p>単なる年表の暗記ではなく、出来事同士の因果関係の把握や、各時代の文化に関するイメージを持つておくことが大事。</p>
<p>問4 近代以降の歴史</p>	<p>近現代の日本における経済や産業の発展というテーマに関する資料を用いた問題。全体的に、昨年度から難易度的な大きな変化はなく、基本的な知識の正確な定着が問われた。</p> <p>出来事を起きた順に並べる(エ)は、1956年から2000年までの日本の経済成長率とGDPの推移を示した資料の読み取りに加えて、近現代史の基本知識が問われる問題で、正答に至るまでの思考の回数が多く、やや負荷が高かったか。</p> <p>(オ)は「経済や産業の発展が世界の人々に与えた影響を考えるためになにを調べるべきか」という少し変わった切り口での出題となったが、選択肢の内容自体は基本的な知識を問うものだった。</p>	<p>問3同様、初見の資料が出てきても、歴史分野ではまず基本的な知識が問われるということを抑えたくうえで学習を進めよう。</p> <p>一見変わった問題が出て落ち着いて対処できるよう、問題演習も重要になる。</p>

# 2026 社会-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 公民 経済	<p>税に関する調べ学習という形式での出題。</p> <p>(ア)は概算が必要な問題だったが、消去法を用いてショートカットすることもできた。(エ)は読まねばならない資料の量が多く、一見して難しいように見えるが、問われていること自体は基本的な事項で、落ち着いて選択肢を吟味すれば問題なく解けるレベルだった。全体として昨年並みの難易度だった。</p>	<p>税制や経済政策の仕組みは頻出。公民の経済分野は単なる暗記ではなく、仕組み、メカニズムとして理解できているかが問われる。</p> <p>なぜそのような仕組みになるのか、説明できるようにしておけば安心だ。</p>
問6 公民 政治	<p>合唱コンクールの曲の決定法という切り口から、政治における個々人の意見の反映はどのように担保されるか、というテーマの調べ学習という形式での出題。</p> <p>(ア)と(エ)は概算が必要な問題で、限られた試験時間内で落ち着いて資料を読み、必要な数値を処理できるかが問われた。その他の問題は、政治的意思決定の仕組みに関する基本的な知識を問う問題で、全体として昨年並みの難易度という印象だった。</p>	<p>経済分野同様、政治分野でも、大切なのは単なる暗記ではなく、仕組み、メカニズムとしての理解である。</p> <p>政治分野では、それぞれの制度やルールが「何のために」あるのかを意識して学習することが大切。</p>
問7 分野横断型	<p>極地域を除いたメルカトル図と、経済格差や紛争といった国際課題に関する資料を用いた分野横断型の大問。</p> <p>(ア)は簡単な時差と地図の特徴に関する問題で、世界地理の大問から移動した。基本的に、各分野の基礎知識が問われる問題だったが、(エ)はODAおよび国境なき医師団に関する4つの資料をさばく必要があるやや複雑な問題であった。昨年の(エ)同様、設問の難易度自体は高くなく、落ち着いて考えれば取れる問題ではあった。最後の小問にどれだけ時間をかけられたか、がポイントになったのではないか。</p>	<p>全体として、基本的な知識の確実な定着は相変わらず重要だが、それと同程度に、資料の読み取りの速さと正確性が必要だった。</p> <p>遅くとも中3夏頃から、社会についても入試に近い形式での問題演習を回していくことが大切。そこで見つけた知識の穴を埋めていくようなアプローチで学習を進めてみよう。</p>

# 2026 理科-①

- ・例年通り、問1～問8の出題で物理、化学、生物、地学の順番での出題となった。各問の問題数に少し変化があり、2つできて正解となる完答形式の問題も復活した。
- ・日常生活に関わる化学の問題や、原理原則を問う問題があったのは、これまでの出題傾向と同様であった。今年は基礎知識を使って解く問題が増えた印象。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	(ア)では音の問題。モノコードの弦の長さを変えたときの音の変化を問う問題。基礎的な問題であった。(イ)はばねばかりで「ばねの伸びやすさ」を推測する、というあまり見かけない問題。(ウ)は力の合成の問題。こちらも神奈川県入試ではあまり出題されていなかったパターンであったが、基本通りに作図をすれば正解を導くことができた。	各問題では基本的な知識事項で解くものがある。まずはその基礎知識をしっかり定着させること。  問1(ウ)の力の合成は、神奈川県入試ではほとんど出題されていないが、教科書レベルの基本である。  各単元の基礎をしっかりと固め、根本的な理解をしていくことが大切。
問2 化学小問	(ア)は物質の分類の問題。有機物やデンプンに関する知識で解けるものであった。(イ)は質量パーセント濃度と密度に関する問題。それぞれの公式に数値をそのまま当てはめれば良かった。(ウ)は化学反応式の問題。モデル図を見て当てはまる原子の組み合わせを答える問題。原子の個数があうように考えれば解きやすかった。	
問3 生物小問	(ア)は植物の葉と維管束の問題。基本的な内容であった。(イ)はジャガイモの形質や遺伝子を考える問題。過去に似た問題が出題されている。それぞれの遺伝子の組み合わせを丁寧に確認すれば、正解は導きやすかった。(ウ)は食物連鎖にて、動物の数量の変化を答える問題。こちらも過去に出題されているもので、基本的な内容であった。	
問4 地学小問	(ア)は火成岩の冷え方とつくりを答える問題。基礎知識で解けるものであった。(イ)は地層ができたときの様子を答える問題。こちらも基礎知識で解けた。(ウ)は外の気圧の変化とペットボトルの中の空気に起こる変化を選ぶ問題。気圧と空気の体積、温度などの原理をおさえておく必要があった。	

# 2026 理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 物理大問	電熱線による発熱に関する実験。例年、複雑であったり難易度の高かったりする問題になりがちな単元であるが、今年は基礎的な内容が目立った。問題で与えられた表を丁寧に埋めていけば正解を導きやすかった。(ア)は回路図の問題、(イ)は電流と電力を求める問題。どちらも基礎知識であり、何の捻りもなく公式に当てはめれば解けた。(ウ)では温度と時間を計算で求める問題。電圧と電流の比例関係を使う典型問題。(エ)ではエネルギーの変換効率の問題。過去にも出題されている観点であり、公式通りにエネルギー量を計算していけばよかった。	<p>各大問では、見たことのないような実験をテーマにした問題が出ることもある。</p> <p>それでも過去の入試問題や全国入試で使う考え方で解くものが多い。まずは、各単元で典型的な実験問題を解き、問題を解く上で必要な考え方を身につけよう。</p> <p>また、大問の中には基本知識で解ける問題が含まれている。実験や観察の問題が苦手な場合でも、しっかり問題文を読み解ける問題を確実に答えることが大切。</p>
問6 化学大問	電熱線による発熱に関する実験。例年、複雑であったり難易度の高かったりする問題になりがちな単元であるが、今年は基礎的な内容が目立った。問題で与えられた表を丁寧に埋めていけば正解を導きやすかった。(ア)は回路図の問題、(イ)は電流と電力を求める問題。どちらも基礎知識であり、何の捻りもなく公式に当てはめれば解けた。(ウ)では温度と時間を計算で求める問題。電圧と電流の比例関係を使う典型問題。(エ)ではエネルギーの変換効率の問題。過去にも出題されている観点であり、公式通りにエネルギー量を計算していけばよかった。	
問7 生物大問	ネギの白い部分と緑色の部分を比較する問題。二酸化炭素濃度を比較し、表やグラフから仮説が正しいかを判断する問題。(ア)ではどの試験官を比較したら良いかを選ぶ問題。問6と同様に、どんな実験をしたらどんな結果を導けるか、という神奈川県入試で頻出の問題。(イ)では調べたい内容を確かめるために必要な操作を選ぶ問題。(ウ)では表とグラフから二酸化炭素濃度をとらえ、必要な質量や実験方法を考える問題。実験の概要をきちんと捉える必要があった。	
問8 地学大問	太陽に関する問題。(ア)は太陽の黒点に関する知識問題。(イ)では太陽の観察結果と同じ原因となる現象を選ぶ問題。地球の自転と公転、どちらが原因となっているかを整理して理解しておく必要があった。(ウ)は地球と太陽の直径を比較し、黒点の直径を計算する問題。天体の中では典型的な問題。一度は練習問題として解いたことがある受験生が多かったのではないだろうか。(エ)は太陽の自転周期を計算する問題。問題文を丁寧に読み、状況を整理していく思考力が必要であった。	